

大腸癌研究会プロジェクト研究

「MRI 診断能に関する研究」委員会 第 13 回議事録

研究代表者 川合一茂(都立駒込病院大腸外科)

日時 第 99 回大腸癌研究会・2023 年 7 月 6 日(木)10:30~11:00

場所 都ホテル尼崎 鳳凰 中

出席者：相原一紀、安部紘生、井本良敬、岩佐陽介、岩本哲好、上田和毅、大沼忍、小川真平、尾川諒太郎、落合大樹、笠井俊輔、梶原由規、吉敷智和、菊池麻亜子、幸田圭史、後藤健太郎、小林宏寿、小林龍太郎、小山文一、佐伯泰慎、坂本一博、佐々木和人、佐々木恵、佐村博範、杉本起一、須藤剛、須並英二、諏訪宏和、諏訪雄亮、高野祥直、豊島明、中村咲子、新垣淳也、西川武司、濱田聖暁、久下博之、肥田侯矢、深瀬正彦、藤本浩輔、藤吉健司、星野伸晃、三浦卓也、虫明寛行、森川充洋、山城直嗣、山寺勝人、米村圭介
事務局：尾崎公輔、室野浩司、川合一茂

【50 音順】

【敬称略】

議題 1. 前回議事録確認

前回委員会の議事録を確認した。

議題 2. Step1 付随研究(予後解析/EMVI と側方転移について)の進捗報告 静岡がんセンター

静岡県立がんセンター笠井先生より機械学習を用いた直腸癌側方リンパ節転移診断能に関して報告された。術前治療施行症例を除いた症例を対象とし、EMVI を含む原発巣の因子と側方リンパ節の径を用いて側方転移を予測する 2 つのモデルを作成。いずれも AUC 0.781、0.840 と高い精度をもって側方リンパ節転移を予測可能であった。

また、予後情報を用いた解析は現在論文化中であることも報告された。

質疑内容・意見

・Step2 の症例を validation として用いると症例数が少ない点が改善されるのではないかと。
(委員長・川合)

議題 3. Step1 付随研究 (術前治療の違いと側方転移)の進捗報告 京都大学

京都大学星野先生より進捗状況が報告された。本研究が、第 78 回日本消化器外科学会総会 AGSurg Forum に採択された旨報告された。CRT、NAC 症例それぞれの側方リンパ節短径に着目して検討した。CRT 症例では転移陰性リンパ節も前治療により縮小を認めたが、NAC 症例では転移陰性リンパ節の縮小は認めなかった。今後論文化の予定である。

質疑内容・意見

- ・リンパ節の縮小は絶対値、縮小率どちらで評価するのが良いか。(委員長・川合)
→縮小率で検討した旨報告された。
- ・リンパ節転移 1 個ずつ対応させて評価を行ったのか、症例毎に評価を行ったのかとご意見いただいた。(防衛医大・梶原先生)
→中央判定で行ったリンパ節毎の転移の有無の評価を基に検討した旨報告された。

議題 4. Step1 付随研究(CT と MRI のリンパ節存在診断能の比較/原発の因子からみた側方転移予測スコアの Validation について)の進捗報告 名古屋大学

名古屋大学小林先生より現在論文化中である旨報告された。

議題5. Step1 付随研究(MRI上のEMVIと病理所見でのEMVIやDRの対比)について 防衛医大

防衛医科大学梶原由規先生より研究の要綱、中央判定を行うためのプレパラート送付の手順につき説明いただいた。

議題 6. Step1 付随研究(mrLLN+における治療前後、mrT/CRM/EMVI と Outcome の関係) 弘前大学

弘前大学三浦卓也先生より、新規の付随研究の提案をいただいた。側方リンパ節転移が予想される群において、CRT+側方郭清と NAC+側方郭清の予後比較を行うことが提案され、承認された。

議題 7. Step2 症例集積終了と今後の解析予定のご報告

委員長川合より、本研究会をもって Step2 症例の集積が終了し、125 例集積することができたこと報告した。今後画像データ、CRF を基に解析を進めていく。

議題 8. その他

特記事項なし

文責：川合一茂